慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	鈴木, 透(Suzuki, Tōru)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2023
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.144 (2023. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	鵜﨑明彦先生退職記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000144-0197

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

鵜﨑明彦先生の退職記念号を無事に刊行することができた。ご寄稿いただいた方々をはじめ，関係者の皆様に厚く御礼申し上げたい。

思えば，鵜﨑さん（普段の呼び方で書かせてください）の教授会デビューは鮮烈だった。「鵜﨑で～す。よろしくお願いしま～す。」鵜﨑さんの教授会での新任着任挨拶は，これだけだった。自己紹介も何もなしの，シンプルさを極限まで追求したミニマリズムは，第一印象としてはかえってあまりに強烈すぎるインパクトがあった。しかも，ちょっと強面で（ごめんなさい）体格もがっしりしていて，「この人は何者だろう」という素朴な興味を惹かれたのは，筆者だけではなかったと思う。

鵜﨑さんとどのように親しくなったのか，正直，はっきりとは思い出せない。というのも，各種委員会の仕事でご一緒するようなことは，実際にはほとんどなかったからである。ところが，鵜﨑さんには日吉でも三田でもキャンパスでよく遭遇した。立ち話を繰り返すうちに，とても気さくな方なのだとわかった。いつしか互いの言葉使いもインフォーマルになり，「オイ，トオル～，オマエ～」のように話しかけられて，筆者もほとんどため口のような口のきき方をするようになっていった。筆者にとってこの種の会話ができる他部門の先輩は，鵜﨑さんだけである。

鵜﨑さんとは授業や学生の話をよくしたものだが，真面目で，繊細で，包容力のある先生だということがいつも伝わってきた。鵜﨑さんを見つけると話しかけたくなるのは，そうした鵜﨑さんの魅力

に負うところが大きい。ある時，地域文化論の授業のパワーポイントを見せていただいたのだが，丁寧に作られたスライドの数々に「ここまで準備するなんて」と驚嘆した。「これくらいやってやんねえと，学生わかんねえだろ」と鵜﨑さんは平然とおっしゃるのだが，授業の準備に相当な時間をかけておられる様子が垣間見えた。

鵜﨑さんは，常に何かに全力投球される方である。だから，定年退職後も，「やれやれ，のんびりできる」とか言いながら，実はご自身で新たな研究目標を設定して，それに打ち込む生活を送られるのではないかと思う。その節は，是非また『教養論叢』にご寄稿いただきたい。末永きご健康をお祈り申し上げる次第である。

（編集委員　鈴木透）